

航空機産業の一翼を

プロジェクト8社が始動

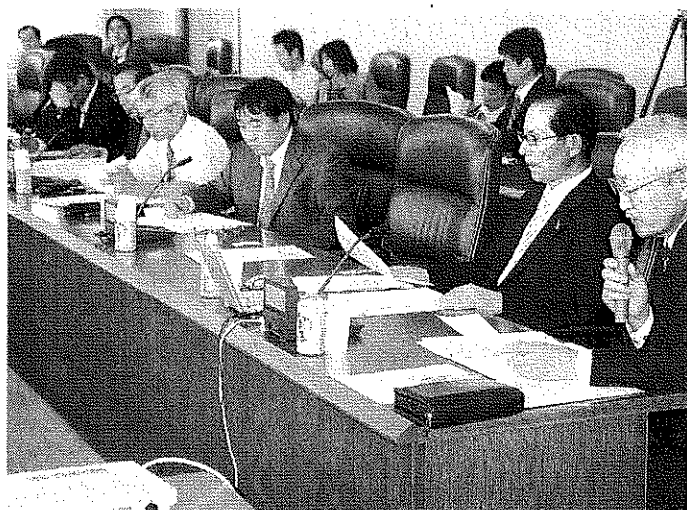
浜松で発足式

航空機部品などの共同受注生産を目指す企業グループ「浜松航空機産業プロジェクト」の発足式が六日、浜松市中央区の浜松商工会議所で開かれた。プロジェクトは、同会議所が事務局を務める宇宙航空技術活用研究会（SAT研）のメンバー企業八社で構成。今後の増加が見込まれる新型航空機の関連部品の受注獲得に向けて、共同で営業活動などに取り組む。

式には参加企業の代表企業は次の通り。
表や関東経済産業局、浜松市の担当者ら約二十人が出席。会則や機密保持契約を承認した後、会長に産業用刃物製造のオリオン工具製作所（浜松市浜北区）の大澄信行社長を選出した。そのほかの参加

市	浅沼技研（浜松市	市東区）、浜松商工会
市	アオヤマ精工（磐田	議所「オブザーバー
市	岩倉溶接工業所	
市	エステック	
市	エンシユウ	
市	テクノ	
市	（浜松市南区）テクノ	
市	・モーターエンジニア	
市	リング（磐田市）プロ	
市	イチ研削工業所（浜松	

金属・工作機メーカー 航空機産業参入へ 8社が共同受注組織



新技術や新製品の共同開発、品質管理の徹底、人材育成、ニーズの把握などにも取り組む。会長

市場が拡大している航空機産業への参入を目指すグループ「浜松航空機産業プロジェクト」が6日誕生し、浜松市中区の浜松商工会議所で発足式を行った。県

浜松

内の金属加工・工作機械メーカー8社がメンバーとして加入。各社で個別に受注獲得を図るとともに、共同受注体制を構築して新たな商機の発掘を進める。

一貫生産体制を整備

にはオリオン工具製作所（浜松市浜北区）の大澄信行社長が就任した。コスト削減を加速させる航空業界が、部品の一貫生産と高い品質管理を強く求めている現状を説明し、「ものづくり浜松の特性を生かせる分野。各社が連携し、技術革新と雇用の創出を図りたい」とあいさつした。

航空機産業の国内生産額は1兆2千億円、世界全体では約40兆円。今後、

県内8社がメンバーとなつた浜松航空機産業プロジェクトの発足式。浜松市中区の浜松商工会議所

2005年から「宇宙航空技術活用研究会」を立ち上げ、セミナーを開いて業界の動向を探ってきた。

ただ、研究会のままで実際に受注に向け始動するのは困難と判断。航空機の機体やエンジンなどの部品加工に対して共同で受注し、製品の「一貫生産体制を整えること」を目的にグループ発足となった。

参画した8社は次の通り。
アオヤマ精工（磐田市）、浅沼技研（浜松市西区）、岩倉溶接工業所（島田市）、エステック（清水町）、エンシユウ（浜松市南区）、オリオン工具製作所（同市浜北区）、テクノ・モーターエンジニアリング（磐田市）、プローチ研削工業所（浜松市東区）



浜松地域の金属加工メーカーなど8社は6日、「浜松航空機産業プロジェクト」を立ち上げ、浜松商工会議所で発足式を開いた(写真)。成長が見込まれ

航空機産業プロ発足

浜松の金属加工メーカーなど8社

る航空機産業に本格参入し、国内重工メーカーから共同受注を目指す。同プロジェクトの会長に就任した大澄信行オリオン工具製作所(浜松市浜北区)社長は「品質規格が厳しくメンテナンスも妥協を許さない航空機産業は、日本のモノづくりの得意とするところ。強い意志を持った8社が団結し、力強くスタートしたい」と意気込みを語った。

メンバーは産業クラスター計画の一環として、2005年に発足した宇宙航空技術利活用研究会(SAT研)の一部企業で構成。重工メーカーは品質確保やコスト低減のため、発注を部品単体からユニットに切り替える動きにある。同プロジェクトはこれに対応し、SAT研で研究した特殊金属や複合材の加工技術を生かしてユニットや工具の共同受注に結びつける考え。

浜松地域で盛んな自動車や2輪車産業が円高の逆風を受けており、輸送用機器に続く新産業創出への期待もかかる。

(浜松)

航空機部品の受注組織設立

静岡県西部を中心とした中小企業8社は6日、航空機部品の共同受注組織「浜松航空機産業プロジェクト」を設立した。炭素繊維強化樹脂(CFRP)の加工技術などを持ち寄り、新技術の開発を目指す。会長には産業用のこぎりメーカー、オリオン工具製作所(浜松市)の大澄信行社長が就任、発足式で「浜松に航空機産業の礎を築きたい」と意欲を示した。

航空機エンジン部品を手掛けるエステック(静岡県清水町)など県東部の企業も参加。航空産業OB3人を顧問に迎え、重工メーカーとの橋渡し役として営業活動を支援してもらう。静岡県も後押しし、全国の共同受注組織との連携を進める。

関東経済産業局によると、世界の航空機産業の市場規模は40兆円。日本は1兆2000億円、中国は2030年に3兆円に増やす計画を描いている。

航空機産業参入へ共同体

金属加工など中小8社

航空機産業への参入を目指す県内の中小企業が6日、共同受注グループ「浜松航空機産業プロジェクト」を設立した。品質・価格・納期(QCD)を重視して単体企業から共同事業体への発注に移行しつつある業界の潮流に対応し、機体構造部品やエンジン部品の加工、ユニットなどの製品の一貫生産を目指す。

同プロジェクトの参加企業は、オリオン工具製作所(浜松市浜北区)、エンシユウ(同市南区)、エステック(清水町)など、県西部を中心とする金属加工、工作機械などのメーカー8社。いずれも2005年に発足した浜松地域新産業創出会議の宇宙航空技術利活用研究会(SAAT研)に参加し、航空機産業への新規参入の可能性を探ってきた。

航空機産業は、今後20年間で現在の2・5倍へ需要拡大が見込まれる成長分野。ただ、小型軽量化に伴って新素材の導入や技術革新が進む上、取引先からは品質水準や機密保持など厳しい条件が求められる単独では新規参入が難しい。このため、国内でもQCDの確保に不可欠とされる共同事業体による新規参入の動きが広がっている。

6日は浜松市中区東伊場の浜松商工会議所でプロジェクトの発足式が行われ、機密保持契約を通じて情報の共有や新技術・製品などの提案と共同開発、共同受注のPRや営業活動などを行う方針が承認された。

会長に就任したオリオン工具製作所の大澄信行社長は同日、「製造業の海外移転などで空洞化が進む中、航空機産業は日本が得意とする厳しい技術や品質要求

への対応力が生かせる分、結してやっていきたい」と野。長い道のりだが一致団話した。